

## 目 次

大会プログラム	p. 2
講演者・研究発表者・ワークショップ発表者・シンポジウムパネリスト紹介	p. 4

## I. 研究発表

杉本明子、黒沢学、文野峯子、大島陽子	在日留学生の日本語習得と 社会・心理的要因との関係性	p. 7
小山 亘	方言、構造、普遍文法——方言間のヴァリエーションと 比較言語学的普遍から特殊言語の構造を三角測量する方法	p. 13
坂詰洋子	言語コミュニケーションにおける確認の機能 ——レファレンスインタビューを事例として	p. 19
島田和美	デス・マス体の「カ抜き」質問文について	p. 25
林 炫情	日本語と韓国語における呼称の対照研究——親族間の呼びかけことばを中心に	p. 31
千 惠蘭	中国延辺朝鮮語の聞き手待遇における使用実態について——家庭内・外を中心に	p. 37
金 珍妮	スピーチレベルとスピーチレベル・シフトにおける日韓対照研究	p. 44
橋本佳美	終助詞「もの」のポジティブ・ポライトネス	p. 50
佐野直子	「言語的人権」についての批判的考察 ——欧州地域語・少数言語憲章と「少数言語」	p. 56
鷺 留美	女性語と言語政策に関する一考察 ——戦時期日本における国語協会と文部省の動向を中心に	p. 62
森口英則	カタカナ表記についての一考察	p. 68
前田泰樹	言語療法場面の相互行為分析	p. 74
南雲大悟	中国諷刺漫画におけるタイトルの補完性——“四人組打倒”表象を中心に	p. 80
山上龍子、高木裕子	「～てください」との比較を通じた、米沢地域語話者による 「～テクダイ」の使われ方	p. 84
平野圭子	英語方言接触による日本在住英米人の(t)発音における変化とその言語的要因	p. 90
佐藤 彰	発話行為論の談話への応用 ——インターアクションの社会言語学と会話分析の立場からの批判的分析	p. 96
落合弘之	表象変化に対する言語化の効果 ——ハノイの塔を解く過程のプロトコル分析からの考察	p. 101

## II. ワークショップ、シンポジウム

伝 康晴	ワークショップ1 コーパスにもとづく言語科学——現状と将来	p. 107
井出祥子	ワークショップ2 社会・文化的認知と談話分析の新たな視界	p. 108
津田 葵	公的な場でのスピーチにおける「演じる」自己と「映し出される」自己	p. 109
松木啓子	言語事象としてのインタビュー再考	p. 115
高野照司	日本人の言語交渉における意見衝突場面の韻律ストラテジー	p. 118
片岡邦好	メンタルマップの共同構築における直示的移動動詞の用法について	p. 124
西原鈴子	シンポジウム 滞日ニューカマーの言語習得と日本語学習	p. 130

## III. 付録

社会言語科学学会会員募集のお知らせ	p. 131
次回(第7回)研究大会の予定と発表募集及びワークショップ募集のお知らせ	p. 132
学会誌「社会言語科学」特集論文の募集のお知らせ	p. 134
学会誌「社会言語科学」編集規定・投稿規定・執筆要項	p. 135
第6回大会実行委員・研究大会委員一覧	p. 138
会場案内図	